

## 令和2年度 さいたま市立東浦和中学校 学校関係者評価書

さいたま市立東浦和中学校

学校関係者評価委員長



### 1 学校関係者評価の実施体制

- (1) 構成人数 11名
- (2) 実施回数 2回

### 2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

「教職員の自己評価」「生徒アンケートの集計結果」「保護者アンケートの集計結果」を踏まえた意見からは、今年度新型コロナウイルス感染症拡大において、過去体験したことのない状況が続き、学校教育目標達成のために、多くの教職員が負担や苦労の中でも、本校の職員であることに誇りをもち、学校の様々な教育活動に対し子どもたちに「何ができるか」を模索しながらも成果を上げたことが伺える。同時に、今後解決すべき課題も明らかになった。具体的には、以下の通りである。

#### (1) 学習指導、学校行事について

- ・学習指導については、89%以上の生徒・保護者が「学校は学力の向上に努めている」と答えており、昨年度に引き続き高い評価であった。また、全ての教員が、基礎・基本の定着と確かな学力の向上に努めるなど、専門性を活かした指導をしており、落ち着いた学習環境が提供されていると言える。一方、「休業中での学力の向上での教育活動が計画通りに進めているか」と不安に感じている保護者の意見もあり、今後も学習の定着度をより図れるよう、基礎・基本に重点をおき、保護者が「生徒の学力が向上している」と実感できる学習指導を展開してほしい。
- ・学校・学年行事については、90%以上の生徒・保護者が「成長のプラスになっている」と捉えており、コロナ禍においても、安全を確保しながら出来るだけ子どもたちのために実施した行事に満足し、充実した学校生活を送れていると評価できる。また、今年度はバーチャル修学旅行を行い、リモートで京都を知ることができ、生徒の心に残る思い出とする事が出来た。引き続き、有意義な行事を通して望ましい人間関係を形成し、自主的・実践的な態度を育成してほしい。

#### (2) 生徒指導等について

- ・「正しい言葉使いや態度」、「ルールを守ること」、「自分の感情をコントロールすること」など、概ねできており、基本的な生活習慣を身に付けることにおいては、指導できていると捉えている。ただ、教室に入れない生徒など、個別に様々な悩みを抱えている生徒もおり、個々に寄り添った指導においては、さらに充実を図ってほしい。

#### (3) 地域との連携について

- ・コミュニティ・スクールの発足に伴い、学校のビジョンが示されたので、今後の早期具体化を望む。
- ・学校だより等で、学校の様子を伺い知ることができた。今後はメール等でもやり取りができると良い。

### 学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・学習指導においては、学習の定着度を図るために小テスト等、基礎・基本に重点を置き、客観的な指標のもと、確かな学力の向上にむけて、授業法を更に改善する。また、さいたま市 GIGA スクール構想に基づき、タブレットを活用した ICT 教育にも力を入れ、取り組んでいく。
- ・様々な悩みを抱えている生徒に対して、配慮した教育を展開し、「コミュニティ・ルーム」を活用した教育相談を充実させていく。
- ・地域との連携については、コミュニティ・スクールを活動の軸とし、「コミュニティ・ルーム」の設置に学校運営協議会準備委員会や地域と連携しながら、更に具現化していく。

さいたま市立東浦和中学校長 石川 賢一 